

平成 16 年度 設備投資計画
総額 341 億 6,100 万円
中部国際空港開港に向けた空港アクセス専用特急車両の新造
SF カードシステムと駅集中管理システムの範囲拡大

名古屋鉄道は、中部国際空港関係や SF カードシステム等の範囲拡大を骨子とした、平成 16 年度の設備投資計画をまとめた。

平成 16 年度の投資総額は 341 億 6,100 万円で、昨年度に比べ約 174 億円の増加、また過去 10 年間で最大の投資額となっている。

平成 16 年度の設備投資計画の重点項目は、

- 1 . 中部国際空港に関連する、空港アクセス専用特急車両の新造や空港アクセス拠点駅の整備など
- 2 . ストアードフェアカードシステム（以下、SF カードシステム）と駅集中管理システムの範囲拡大
- 3 . 不動産事業における賃貸ビルの建設

の 3 点で、中部国際空港関係に 197 億 500 万円、SF カードシステムと駅集中管理システムの範囲拡大に 41 億 1,400 万円、賃貸ビルの建設に 46 億 9,700 万円を投じる。

また自動車事業では、自動車 NO_x・PM 法に基づき、平成 14 年度から 5 年間で約 400 両の車両更新を予定しており、今年度は 79 両を更新するなど、同事業に 14 億 8,100 万円を投じる。

平成 16 年度 事業別の主な設備投資の内容は次のとおり。

投資額の対前年比較(消費税込み)

事業	平成 16 年度	平成 15 年度	差異
鉄道事業	271 億 900 万円	121 億 7,000 万円	149 億 3,900 万円
自動車事業	14 億 8,100 万円	21 億円	6 億 1,900 万円
不動産事業	49 億 4,900 万円	18 億 4,000 万円	31 億 900 万円
その他事業	900 万円	2 億 1,000 万円	2 億 100 万円
その他	6 億 1,300 万円	4 億円	2 億 1,300 万円
総額	341 億 6,100 万円	167 億 2,000 万円	174 億 4,100 万円

鉄道事業 [271 億 900 万円]

1. 中部国際空港関係 < 197 億 500 万円 >

1) 空港アクセス専用特急車両の新造など < 116 億 4,000 万円 >

中部国際空港開港に向け、空港アクセス専用特急車両として、新名古屋と中部国際空港駅間を 28 分台で結ぶ、全車特別車の 2000 系車両(3 両固定)を 30 両 10 編成、また一部特別車の 2200 系車両(6 両固定)を 24 両 4 編成の計 54 両 14 編成新造する。

2000 系車両は、曲線通過速度の向上を図るため、当社初の車体傾斜制御機能を装備した車両で、空港利用客の利便性と快適性の向上を図るため、車内に大型荷物置き場や障害者対応トイレ、男子用小便所等を設置するほか、文字や映像案内が可能な大型車内案内モニターを装備する。

2200 系車両は、2000 系車両と同様の特別車両 2 両と、乗車券のみで利用できる一般車両 4 両を併結した 6 両編成となる。

このほか、新型通勤車両 3300 系(4 両固定)を 4 両 1 編成、また 3150 系(2 両固定)を 8 両 4 編成の計 12 両 5 編成新造する。いずれも、ステンレスボディーを採用し、混雑時・閑散時に対応するため、ロング・クロスを併用した座席タイプとなっている。

2) 空港アクセス拠点駅の改良工事 < 33 億 6,200 万円 >

中部国際空港開港に伴う空港アクセス拠点駅となる金山駅、新名古屋

駅、神宮前駅の乗継利便性向上とバリアフリー化を図るため、引き続き改良工事を実施する。

【金山駅】

乗継利便性向上を図るため実施している金山駅の駅舎改良工事では、「金山プラザ」としてリニューアルした東棟工事に引き続き、16年度は西棟の改良工事を実施する。西棟工事では、旧店舗スペースを駅コンコースに改修し、JR線との乗継改札口と名鉄改札口を新設するほか、各ホームとコンコースを結ぶ車いす対応エレベーターや多機能トイレを設置する。共用開始は12月の予定。

【新名古屋駅】

乗継利便性向上とバリアフリー化を図るため、団体専用入口付近に改札口を新設し、1階と新設改札口間を結ぶエスカレーターのほか、コンコースと上り、中、下りホーム間に車いす対応エレベーターを3基設置する。また、中央コンコースに多機能トイレを設置する。共用開始は12月の予定。

【神宮前駅】

名古屋本線と常滑線の乗り換え駅となる神宮前駅では、上り、下りホームに車いす対応エレベーターを2基設置し、多機能トイレを設置する。共用開始は12月の予定。

3) 輸送力増強に伴う改良工事など < 47 億 300 万円 >

中部国際空港の鉄道アクセス路線となる常滑線については、本年も引き続き、軌道改良工事や、き電線の張替工事を実施する。また高横須賀変電所の新設や常滑線西ノ口駅の待避線新設工事をはじめ、留置車両数の増強を図るため、引き続き新川検車場の改良工事を実施する。

このほか、空港開港に伴い実施する駅名改称などにあわせ、駅務機器類や業務掲示類の改造工事を実施する。

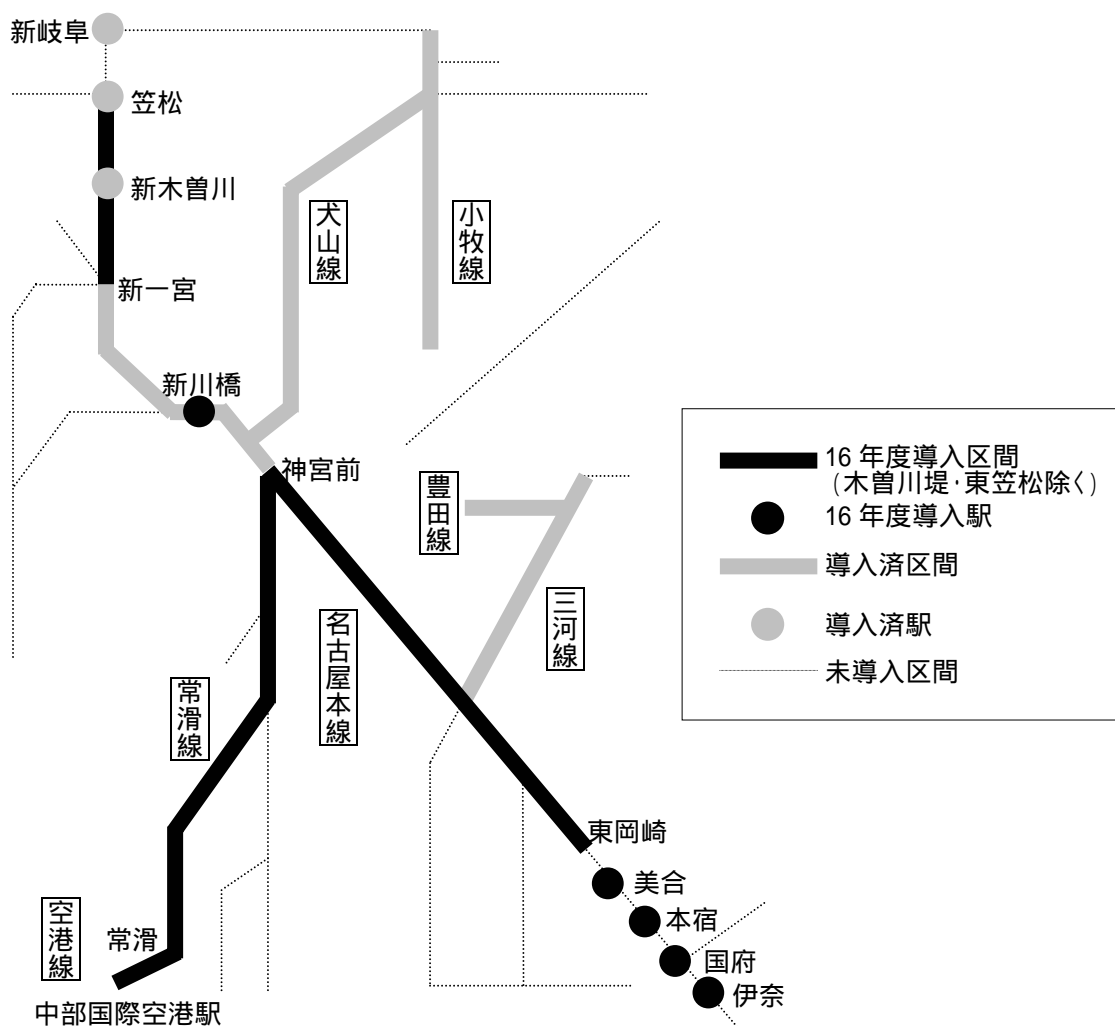
2. SF カードシステムと駅集中管理システムの範囲拡大

< 41 億 1,400 万円 >

共通 SF カードシステム「トランパス」は、昨年 3 月に小牧線に導入して以来、これまで犬山線と豊田線の全駅および名古屋本線と三河線の一部の駅に導入している。今年度は中部国際空港開港にあわせて常滑線・空港線の全駅に導入するほか、名古屋本線神宮前～東岡崎駅間の各駅と美合～伊奈駅間の急行停車駅(4 駅)および、新川橋駅と、新一宮～笠松駅間(木曾川堤駅と東笠松駅を除く)に導入する。また同システム導入に向け、あわせて駅集中管理システムの整備を進める。

なお、SF カードシステムは、17 年度以降も順次導入を進め、19 年度には全線における導入が完了する予定。

【平成 16 年度:SF カードシステム、駅集中管理システム導入予定区間・駅】



今後のSFカードシステム導入計画

平成 17 年度...名古屋本線未導入区間、豊川線、三河線(知立～碧南)、津島線、河和線、知多新線

平成 18 年度...西尾線、竹鼻・羽島線、各務原線

平成 19 年度...広見線、尾西線、瀬戸線、蒲郡線

SF(ストアードフェア)カードシステム

専用カードを直接自動改札機に投入することで、乗車区間の運賃を自動的に引き落とすシステム。共通SFカードシステム「トランパス」は、対応カード(当社発行...「SFパノラマカード」、名古屋市交通局発行...「バス・地下鉄共通大人用ユリカ」)で当社電車線(一部)・バスと名古屋市営地下鉄・バス、桃花台新交通が利用できる。

駅集中管理システム

管理駅から駅員無配置駅または駅係員の対応が終日ではない特殊勤務駅を遠隔制御するシステム。被管理駅には、自動券売機・自動改札機・自動精算機・乗車券確認カメラ・インターホン・放送設備等を設置し、管理駅でこれら機器を遠隔監視、操作する。

3. 駅施設の整備・改良など < 6 億 3,000 万円 >

1) 駅務機器類の改修・新設

名古屋市交通局地下鉄線の延伸や、16 年度中に発行が予定されている新紙幣に対応するため、駅務機器類を改修する。また、空港開港に伴う駅近代化の一環として、中部国際空港駅、金山駅、新名古屋駅にμチケット自動券売機を設置する。

2) パーク&ライド駐車場の整備

鉄道利用促進策の一環として、平成 16 年度は遊休地を活用し、常滑線寺本駅で 18 台分、瀬戸線喜多山駅で 10 台分の駐車スペースを、河和線高横須賀駅高架下には 12 台分、津島線藤浪駅高架下には 15 台分の駐車スペースを確保し、パーク&ライドの推進に積極的に取り組む。

3) 駅施設の新設・改良など

雨よけや日よけなどのため、平戸橋駅、犬山遊園駅、苧ヶ瀬駅などでホームの上屋の増改築を実施するほか、旅客用トイレの改良などを実施する。

4. 車両の改良など < 1 億 8,500 万円 >

このほか、降雪時の保安度向上を図るため、18 両に耐雪ブレーキ装置を設置する。

5. 旅客安全対策 < 6,800 万円 >

ホームで異常が発生した場合、駅係員や旅客が駅構内に設置したボタンを押し、列車非常停止灯を作動させ、列車の乗務員に駅構内の異常を知らせる列車非常通報装置を、新岐阜駅、知多半田駅、新鵜沼駅、津島駅、刈谷駅の 5 駅に設置する。このほか、線路上からホームに上がるためのステップを 20 駅に設置する。

また、車両設備として、ホームから車両連結部への転落防止を図るため、車両固定連結部の車体側面に、車両転落防止幌を 10 編成 38 両に設置する。

6. 土木施設の改良 < 6 億 4,500 万円 >

1) 軌道強化・改良など

常滑線聚楽園駅～太田川駅間で、乗り心地の向上を図るためロングレール化するほか、犬山線犬山駅構内および瀬戸線大曾根駅～矢田駅間で、耐久性に優れたコンクリート製 PC マクラギへの交換を実施する。また美観と保安度の向上を図るため、新名古屋駅線路の道床のコンクリート

化工事に着手する。

2) 耐震補強関連工事

耐震補強のため、常滑線朝倉駅～古見駅間、日長駅～新舞子駅間の 2 カ所で橋梁の補強、改良工事を実施する。また、名古屋本線新名古屋駅～栄生駅間でトンネル補強工事を実施する。

7. 電気施設の改良 < 12 億 3,100 万円 >

安定した電力供給を図るため、知立変電所、笠松き電室の 2 カ所でき電線の増強を実施するほか、有松変電所の受電設備や変成機器を更新する。また、モノレール線用の給電線の更新、信号障害を無くすため、新名古屋駅地下部を無絶縁軌道回路化する。

このほか、西尾線吉良吉田駅～西尾駅間、尾西線五ノ三駅～日比野駅間でバランサーを新設するほか、西尾線吉良吉田駅と豊田線黒笹駅で、駅構内の列車の安全を確保する継電連動装置を更新するなど、電気施設の改良・更新を実施する。

8. 踏切保安設備の新設改良 < 2 億 9,000 万円 >

踏切事故防止策の一環として、3 種踏切 3 カ所を 1 種踏切に格上げする。また、踏切内で何らかの障害物を検知すると、自動的に列車運転士に危険を知らせる発光信号を 15 カ所新設するなど、踏切保安度の向上を図る。

9. 立体化 < 2 億 4,100 万円 >

安全対策の推進と都市計画事業の一環として、4 路線 5 カ所で立体化工事を継続する。

名古屋本線 鳴海駅付近(本星崎～左京山)2.1kmの立体化

竣工予定 / 平成 19 年度

小牧線 間内駅付近(間内～小牧口)0.7kmの立体化

竣工予定 / 平成 16 年度

竹鼻線 羽島市役所前駅付近(羽島市役所前～江吉良)0.9kmの立体化

竣工予定 / 平成 17 年度

常滑線 大同町駅付近(大江～名和)1.6kmの立体化

竣工予定 / 平成 18 年度

常滑線 榎戸～常滑間 1.6kmの立体化

竣工予定 / 平成 16 年度

自動車事業 [14 億 8,100 万円]

1. バス車両の新造と改装 < 13 億 5,900 万円 >

自動車 NO_x・PM 法(*)の施行に伴い、平成 14 年度から 5 年間で約 400 両の車両を更新する計画で、これまで 164 両の更新を実施してきたが、16 年度は、大型車 32 両、中型車 39 両、小型車 1 両、空港車 1 両、高速車 6 両の計 79 両を新造する。

このほか、デラックス車 14 両と一般大型車 12 両を対象に、全塗装やシート張り替え、カーテンの交換等の改装を実施し、輸送サービスの向上を図る。

* 窒素酸化物(NO_x)及び粒子状物質(PM)の特定地域における削減等に関する特別措置法

2. その他 < 1 億 2,200 万円 >

高速バスの効率的な予約体制を整え、コンビニ発券や携帯電話予約等の多様なニーズに応えるため、高速バス予約システムを更新する。また、車両運用の効率化と異常時対応を図るため、一宮統括自動車営業所にバス無線を導入する。

不動産事業 [49 億 4,900 万円]

名古屋市西区牛島の再開発事業の負担金として、平成 16 年度は 16 億 7,900 万円を投じる。また、中区正木(名古屋スポーツガーデン跡地)をはじめ、阿久比駅前、岡崎市大樹寺、常滑市北条の社有地に法人向け賃貸ビルを建設するなど、低利用・未利用土地の活性化を図り、安定収入の確保に努める。

このほか、名鉄バスターミナルビルや名鉄ビルなど、自社ビル内の設備機器類の更新などを実施する。

その他事業 [900 万円]

リトルワールドで、電力容量不足を解消するため、電源増強工事などを実施する。

その他 [6 億 1,300 万円]

SF カードシステムや駅集中管理システムに対応できるネットワーク容量にするため、LAN 機器を更新し、パノラマスーパーネットの更新・構築を実施する。また、新人事情報システム構築のためのシステム導入や自動車事業の分社化に伴う財務システムの改修を進める。

* パノラマスーパーネット

名古屋鉄道の駅、バス営業所などと本社を結ぶ社内 LAN のこと。電子メール、掲示板などの利用のほか、SF システムや座席予約システムなどを結ぶネットワークとして活用している。現在、平成 8 年に構築した同ネットの通信速度を 1,000 倍に確保するため、再構築を進めている。

以上